機巧奇傳
からくりきでん
ヒヲウ戦記
© BONES・會川昇
© ヒヲウ製作委員会

アニメーションとのコラボール。
蔵王の空気と関わってくれた多くの人々の想い。
それらが"べんべらしぼう"に混ざり合って、この作品
ゴキゲンな
は生まれました。
人生の達人、テツの言葉を借りるなら、
"でも、でも"と云った気分です。とヤッホーい。
楽しんで下さい。
タタ

誌す。
ヒートウェイヴ
山口 洋(37)
Yamaguchi.H

機巧奇傳
ヒヲウ戦記

機巧奇傳ヒヲウ戦記
オリジナル・サウンドトラック2

001 使者
002 ヒヲウの険しき道
003 冬
004 炎、闘う
005 新しい一日
006 幕末ネバーマインド・べんべらぼう
007 海
008 馬々
009 炎 part 2
010 ウィンディ・ディ part 2
011 異国のしらべ
012 風雲
013 アイキャッチ
014 ヒヲウの夕暮れ part 2
015 路地裏
016 風のゆくえ
017 旅の景色 part 2
018 とむらい
019 シャムロック・ショア part 2
020 浪士
021 メモリーズ
022 ホライズン
023 華のかぞへ唄

001～005, 007～014, 016～018, 020～023 作曲:山口 洋
006 作曲:中川 敬
015 作曲:山口 洋、中川 敬
019 アイリッシュ・トラディショナル
001～023 編曲:山口 洋
001～023 演奏:山口 洋
023 作詞:アミノテツロー 歌:かみさく郷の子供達

MAIN STAFF

原作	BONES·會川 昇
監督	アミノテツロー
キャラクターデザイン	逢坂浩司　神宮寺 一
からくりデザイン	石垣純哉
時代考証	岩下哲典
総作画監督	逢坂浩司
美術監督	坂本信人
色彩設計	千葉賢二
撮影監督	大神洋一
音響監督	浦上靖夫
音楽	山口 洋（ヒートウェィヴ）
プロデューサー	後藤克彦 横濱豊行 大島 満 佐々木史朗 積 惟文 南 雅彦
製作	ヒヲウ製作委員会 NHK エンタープライズ21 オメガ·ピクチャーズ バップ ビクターエンタテインメント ビースタック ボンズ
漫画連載	月刊マガジンZ（講談社）

MAIN CAST

ヒヲウ	桑島法子
シシ	愛河里花子
マチ	水橋かおり
サイ	飛田展男
マユ	矢島晶子
テツ	鉄炮塚葉子
アラシ	三木眞一郎
アカ	高田祐司
竜馬	井上和彦
ナレーション	恵比寿まさ子
華	池澤春奈
雪	南 央美

ヒヲウの郷に春が来る　～ヒートウェィヴと家族になれた日

　サウンドトラックに限らずアルバムやシングルを制作するには、録音するというレコーディング作業は勿論のこと、とても多くの過程があるんです。意外と認識は少ないかも知れないのですが、僕個人としてとても大事にしたい作業にマスタリングというものがあります。この最終段階作業のために、山口君たちと僕は正月あけて未だ間もない新子安にある日本ビクターの小鐡氏スタジオに集合しました。CDという銀盤にひとつずつ曲の温度を決め、曲間という息継ぎを確認しながら並べていく、まさに精密機械を素手で作り上げるに似た緊張感がある作業なんです。ちょっと上品に書きすぎたかな…。でもこれだけは確かなのが、その時間を共有できたその日は、作り終えたって責任感が最高に充実する日でもあるんです。知られざるCDの誕生日とでも言ったら良いのでしょうか。その日の作業の中で僕の隣のイスに座り、目を閉じスピーカーに集中する山口君は何

音楽プロデューサー　野崎圭一

度も首肯いていました。その姿は生まれた我が子を抱く父親のような優しい笑顔にも見えました。(よそ見ばかりしていたんじゃないですよ、僕もちゃんと聞いてました。)最後の曲を確認し終わった瞬間、長時間にわたる作業で皆疲れているはずなのに全員の笑顔を見ることが出来、チームがファミリーになった実感を覚えました。
　きっとまだ今ごろ蔵王の郷は一面の雪景色でしょう。雪が解け牛を放牧し始めた頃に、このレコーディングはスタートしました。夏には飛ばされそうなテントに耐え、窓のガラスを無視して飛び込んでくる蝉の声に驚き、本当に自然とともに過ごした音作りでした。虫の歌声もあえてカットはしていません。地面と同じ高さで音楽を奏でるネイチャーコラボレーションのゲスト達と山口洋の懐の深さに、ヒートウェィヴファミリーに感謝しています。そしてなにより素晴らしい音楽をありがとう。

ヒ ヲ ウ 戦 記 の 音 楽 と は な ん だ ろ う 。

この企画を動かすときには、はっきりいって音楽に対するイメージはなかった。日本、しかも江戸時代末が舞台の映像的なイメージは、はっきりしているのだが、音楽のイメージとなると？　アミノ監督、音楽のイメージどうです。作曲家の候補とかないですか。え、特にない？　で、ビクターエンタテインメントの野崎プロデューサーの出番となるわけだが、この作品、ちょっと普通のアニメとは毛色の違う内容なのでイメージがまずわかってもらえるだろうかと、思っていたのだが。この野崎さんは変なプロデューサーであった。この人でいきましょうと、彼の中では決めてきていたのだった。それが、今回初めてアニメの音楽を手がける事となった山口 洋さんだった。最初にデモとしてもらったのが、オープニング用としてだしてもらった曲だが、実は１枚目のアルバムの「炎」になった曲だ。(「ヒヲウのテーマ（オープニング）」はその後にもらっ

プロデューサー　BONES 南 雅彦

た。）自分にとって、この曲を聞いて「ヒヲウ戦記」の音楽はこれだったのか。と、納得してしまった。たぶん戦国時代や昭和の時代背景の作品だと違うのだろう。まさに幕末という西洋の文化が日本に押し寄せた時代であり、日本の原風景が色濃く出ている時代だから、であろう。そして、その時代の中でまさに生きていたヒヲウ達のドラマにはこの音しかなくなってしまったのだ。あとは、蔵王からの便りを待つのみ。蔵王に行ったアミノ監督からの話を聞きつつ、ダビングの日を迎えるのを楽しみにしていたのであった。フィルムの完成は観ていただければ判る通り、素晴らしい上がりとなり、山口さんアンド　ヒートウェィヴ　アンドレコーディングに参加していただいた皆さんに感謝。ありがとうございました。野崎さんお疲れ様。

心残りは、自分が蔵王に行けなかった事…。

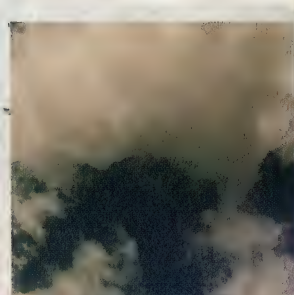
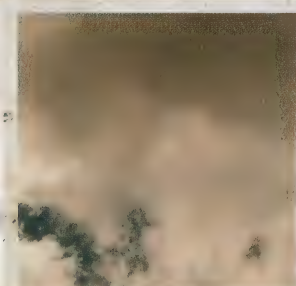
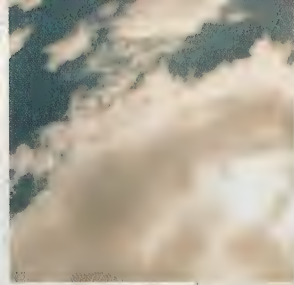
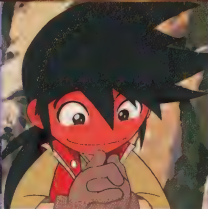
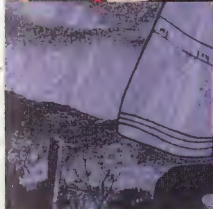
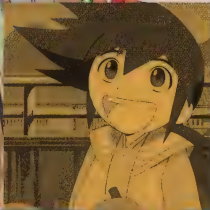
音楽はライブがいい。

監督 アミノテツロー

それは赤ちゃんもそう思ってる。CDから流れてくるシューベルトの子守唄よりも、
多少なげやりでも、お母さんの口ずさむ子守唄の方がいい。そう思っている。
今の赤ちゃんは違う、とか言うな!!
絶対にCDなんかより母の歌声の方がいいのだ。よくなければいけないのだ!!
と、CDのライナーにこんなこと書いていいのか!
いや、心配することなかれ、このCDは限りなく生ものである。くどい様だが蔵王のふきっさらしで録音したのだ。すき間風の音、虫の声、堆肥の臭い、なんだって入ってる。
捨てるなー!! 牛の臭いぐらいなんだ。匂いと書けば平気だろ。
と、まあ、それほど生なCDだがそれでもライブを見たいな。そこは限りなく風通しのいい外みたいなところがいいな。
「生ヒートウェイヴふきっさらしヒヲウ戦記ライブ」楽しみだな。

ALL PHOTOS ▶アミノテツロー

華のかぞへ唄

作詞／プシノテツロー　作・編曲／山口 [illegible]

ひとつ　ひとつ　ひとりきり
ふたつ　ふたえ　まなこでも
みっつ　みっつ　みつからぬ

よっつ　よっつ　よあけには
いつつ　いつも　きえてゆく
むっつ　むっつ　むかしから

ななつ　ななつ　まがりみち
やっつ　やっと　やえざきの
ここのつ　ここで　はなをつむ

唄：かみさく野の子供達
[illegible]
[illegible]

P R O F I L E

山口 洋　やまぐちひろし(ヒートウェイヴ)

1963年福岡生まれ。80年ヒートウェイヴ結成、90年メジャーデビュー後、現在までに8枚のオリジナルアルバムを制作。最新作は99年リリースの「日々なる直感」(ポリドール)。鋭く心に突き刺さる歌詞とさまざまな音楽要素を取り入れたロックンロール、また、その場の空気をつかむ躍動感あるライヴは高い評価を得ている。海外ミュージシャンとの交流も多く、特にアイルランド音楽に造詣が深い。サウンドトラックを手がけるのは今回が初めてだが、蔵王山中の廃校に機材を持ち込んでのレコーディング、自らの手によるミックスダウンなど、独自の方法で制作。レコーディングには、ヒートウェイヴの山川浩正、伴慶充ほか、ソウル・フラワー・ユニオンのメンバーも参加。

＊OFFICIAL HOMEPAGE "ROCK'N ROLL ASS HOLE"
http://www.five-d.co.jp/heatwave/　E-mail : heatwave@five-d.co.jp

＊OFFICIAL FANCLUB　東京地獄商事
〒153-0064　東京都目黒区下目黒2-19-3　B.I.ビル2F ファイブディー内
(問)Tel 03-5436-6977

All Songs Written by Yamaguchi Hiroshi
except for M - 6 : Written by Nakagawa Takashi
M -15 : Written by Yamaguchi Hiroshi and Nakagawa Takashi
M -19 (Irish traditional)

Yamaguchi Hiroshi - Electric & acoustic guitars, bouzouki, dobro, mandolin, bass, bodhrán, percussions, bass drum, organ, piano, accordion, keyboards, sampling, harp, tin whistle, chorus and vocal
Ban Yoshimitsu - Drums and tambourine

Guest musicians
Yamakawa Hiromasa - Bass (M-6,7) and chorus (M-7)
Morgan Fisher - Piano and wind chime (M-19)
Fujii Kazuo - Sax (M-3,5), tin whistle (M-11,16) and electric piano (M-21)
Mushi - Voices (M-9,20,21)

Kawamura Hiroshi - Bass and "akikan" (M-6)
Nakagawa Takashi - Sanshin (M-6)
Itami Hideko - "Yakan-no-futa" (M-6)

Ohayashi (M-6) - Nakagawa Takashi, Kawamura Hiroshi, Itami Hideko, Yamakawa Hiromasa, Yamasaki Tsuyoshi, Yamasaki Nami and Katada Akiko
Hand Clap (M-1,5) - Hotta Noriyuki, Ban Yoshimitsu, Fujii Kazuo and Yamaguchi Mayuko

Supervisor : Amino Tetsuro
Produced by Nozaki Keiichi (Victor Entertainment)
Sound Produced by Yamaguchi Hiroshi (Heatwave)

Mixed by Yamaguchi Hiroshi
at Umajirushi Coffee Studio (Tokyo)
Recorded by Hotta Noriyuki at "from Zao Island" (Zao,Miyagi)
Additional Recording at Morgan's house (M-19)
Mastered by Kotetsu Toru (JVC Mastering Center)

General Manager : Sato Go (Five D)
Artist Manager : Hotta Noriyuki (Five D)
Management Secretary : Katada Akiko (Five D)
Head of Promotion : Abe Hiroyuki (Victor Entertainment)
Promotion : Ito Shousei, Saito Yu,
Miyai Shiho and Sugawara Takanori (Victor Entertainment)
A&R Desk : Onishi Etsuyo and Yanadori Chiyako (Victor Entertainment)
Sales Promotion : Okamoto Ken and Yamashita Kou (Victor Entertainment)

Moral Supporter : Sasaki Takao and Nara Shoshiro
Coordination : Hotta Noriyuki (Five D)
Chef : Yamaguchi Hiroshi, Ochi Nozomu, Ban Yoshimitsu,
Yamasaki Tsuyoshi & Nami, Morioka Tetsuya & Shinobu, Sasaki Takako,
Seki Eiko & Saito Aki and Yamaguchi Mayuko
Dish Washer : Fujii Kazuo
Healer : Yamaguchi Hana (dog)

Cover Illustration : Ousaka Hiroshi
Art Direction : Yamanishi Takafumi (Victor Design Center)
Design : M_K (Victor Design Center)
Post Pro Editor : Wada Kumiko (Victor Design Center)

Executive Producers : Goto Katsuhiko (NHK Enterprises 21)
Yokohama Toyoyuki (Omega Picture's)
Oshima Mitsuru (VAP)
Sasaki Shiro (Victor Entertainment)
Seki Korefumi (BeSTACK)
Minami Masahiko (BONES)

For love, help, and encouragement on the way
Special thanks to :
Sasaki Takao, Nara Shoshiro, Yamada Nyugyo, Goto san, From Zao Island Crew,
Fujii Kazuo, Ochi Nozomu, Morioka Tetsuya & Shinobu & Miho,
Nozaki Keiichi, Yukiyo, Hiroko and Fumiya, Seki Eiko & Saito Aki,
Yamasaki Tsuyoshi, Nami and Marina, Hosomi Sakana, Soul Flower Union,
Star Tech and Plankton

[**取り扱い上のご注意**] ◎ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。◎ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。◎ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。◎ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。[**保管上のご注意**] ◎直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。◎ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。◎プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。

VICL-60644

機巧奇傳ヒヲウ戦記 オリジナル・サウンドトラック2

触ってごらん、深呼吸の後に響き渡る弦のぬくもりを。

ヒートウェィヴ山口洋がヒヲウと過ごした1年の集大成がここに完成

定価¥3,045
(税抜価格¥2,900)

VICTOR ENTERTAINMENT

機巧奇傳ヒヲウ戦記

機巧奇傳ヒヲウ戦記 オリジナル・サウンドトラック2

音楽 山口 洋 (HEATWAVE)

VICL 60644

HEATWAVE

21世紀初のツアー
「機巧襲撃」

3/15(木)
仙台・ビーブベースメントシアター
問:キョードー東北
TEL:022-296-8888

3/17(土)
岡山・MOGLA
問:NO FEAR／NO MONEY企画
TEL:086-275-0846

3/18(日)
福岡・Drum Be-1
問:ブレインズ
TEL:092-771-8121

3/20(祝)
大阪・バナナホール
問:ソーゴー大阪
TEL:06-6344-3326

3/21(水)
名古屋・クラブクアトロ
問:ジェイルハウス
TEL:052-936-6041

3/25(日)
新宿・リキッドルーム
問:ソーゴー東京
TEL:03-3405-9999

4 988002 413072

解説・歌詞付
〈アニメーション〉